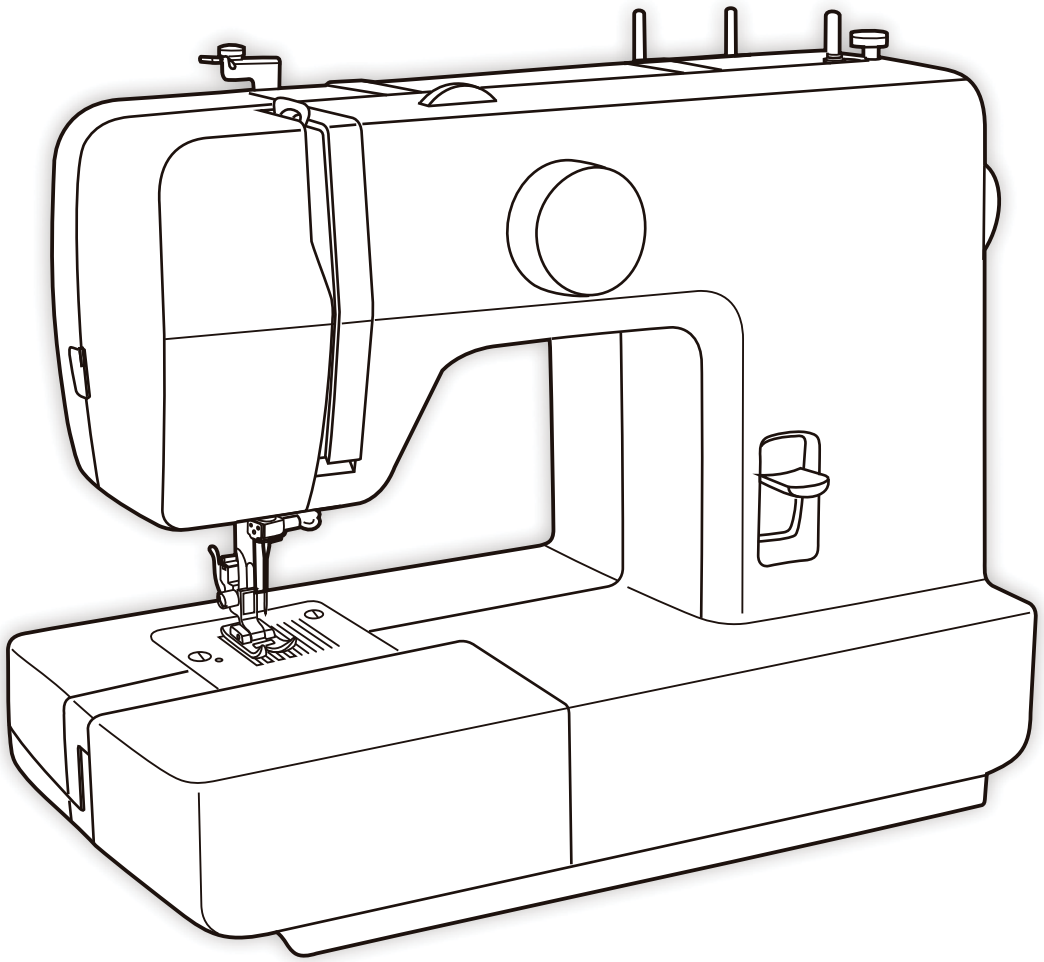
toyo

Compact sewing machine
使用の手びき



このミシンを安全にお使いいただくため、この
「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読み下さい。
「使用の手びき」は手元に保管し、末永くご活用下さい。

このたびは、ミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用ミシンです。
このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手引き」をよくお読みください。
「使用の手引き」は、保証書と共に大切に保管してください。

◆ 安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

⚠ 警告：感電、火災の恐れがあります。

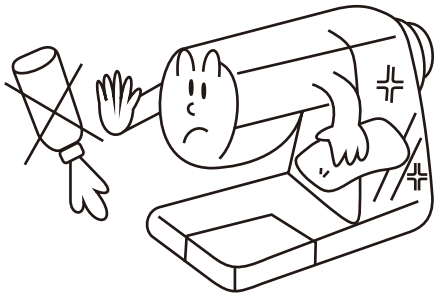
1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
   - ミシンのそばを離れるとき
   - ミシンを使用したあと
   - ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意：感電、火災、けがの原因となることがあります。

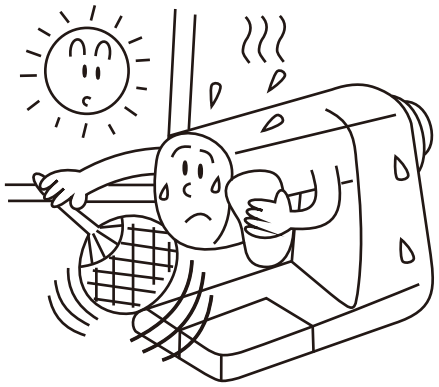
1. 電源をつなぐ際は、電源スイッチを必ず「OFF」にしてください。
2. お客様自身での分解・改造はしないでください。
3. ミシンの操作中はかまカバー・面板などのカバー類は必ず閉じてください。
4. ミシンの操作中は、針元から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づかないでください。
5. 曲がった針はご使用にならないでください。
6. 裁縫中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
7. お子様がご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
   - 針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき。
   - ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください）。
   - 「使用の手引き」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
   - 上糸・下糸をセットするとき。
9. ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、お近くの販売店、または各地区「お客様相談係」にご連絡の上、点検・修理・調整をお受けください。
   - 正常に作動しないとき。
   - 落下などにより破損したとき。
   - 水に濡れたとき。
   - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
   - 異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

◆ ミシンの取り扱い

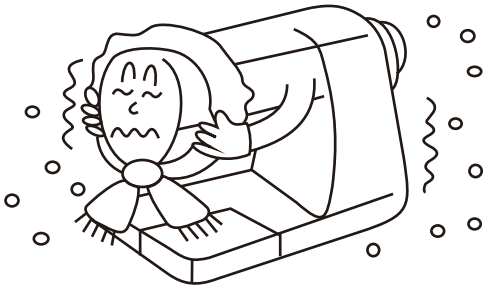
- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
  汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
  時間がたてば正常に作動するようになります。
  保管は、なるべく寒いところをさけてください。



◆ 仕様

定格電圧	100V
消費電力	60W
周波数	50Hz/60Hz
LED ライト	Max. 100mW
寸法	幅：380 mm × 奥行：186 mm × 高さ：275 mm
重量	約 6.0 kg（本体のみ）

◆目　次

安全にご使用いただくために …… 2

ミシンの取り扱い、仕様 …… 3

目次 …… 4

付属品 …… 5

補助テーブル …… 6

各部の名称 …… 7

電源のつなぎ方と始動、停止 …… 8

下巻の巻き方 …… 9

ボビンの挿入方法 ……10/11

上糸のかけ方 ……12/13

下糸の引き上げ方 …… 14

針の取付けと取り外し方 …… 15

模様の選び方 …… 16

上糸調子のとり方 …… 17

押え金の取り付けと取り外し方 …… 18

２段式押え金、針と糸と布地の組み合わせ …… 19

直線縫い …… 20

返し縫い、縫い方向のかえ方、厚地の縫い始め、段縫い ……21

飾り縫い / ジグザグ縫い　裁ち目かがり …… 22

まつり縫い（ブラインドステッチ）……23/24

ボタンホールの縫い方 …… 25

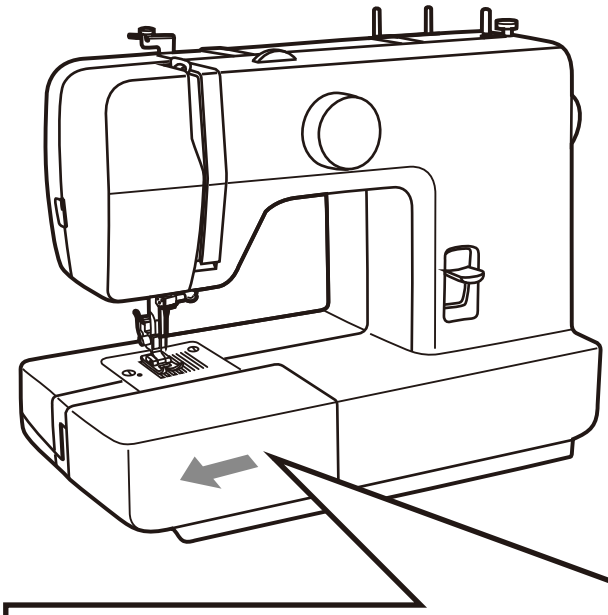
ファスナー付け …… 26

LED ライトの交換 …… 27

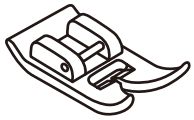
ミシンの手入れ …… 28

調子よく縫えない原因と解決方法 …… 29

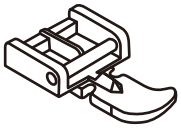
◆ 付属品



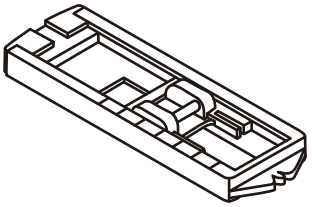
- 補助テーブルは、左方向にスライドさせると本体より取り外せます。
- 付属品は、補助テーブルの中に入っています。



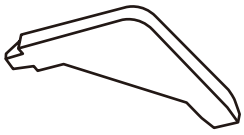
ジグザグ押え
（購入時はミシン本体にセットされています）



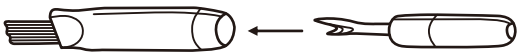
ファスナー押え



ボタンホール押え

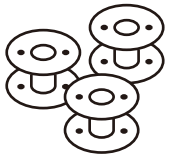


ドライバー

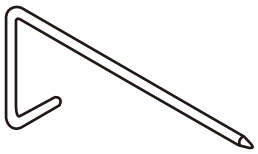


リッパー／ブラシ

針パック

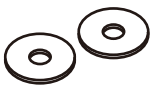


ボビン

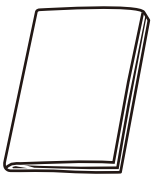


シームガイド

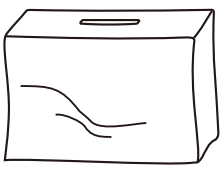
油さし



糸こま座



取扱説明書

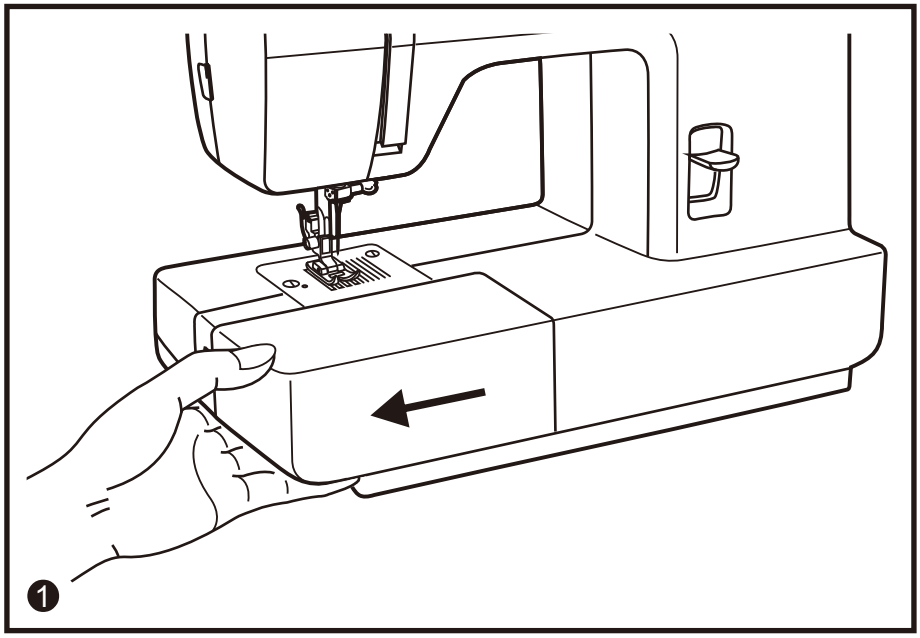


ソフトカバー

フットコントローラー
（電源コード一体式）

◆ 補助テーブル

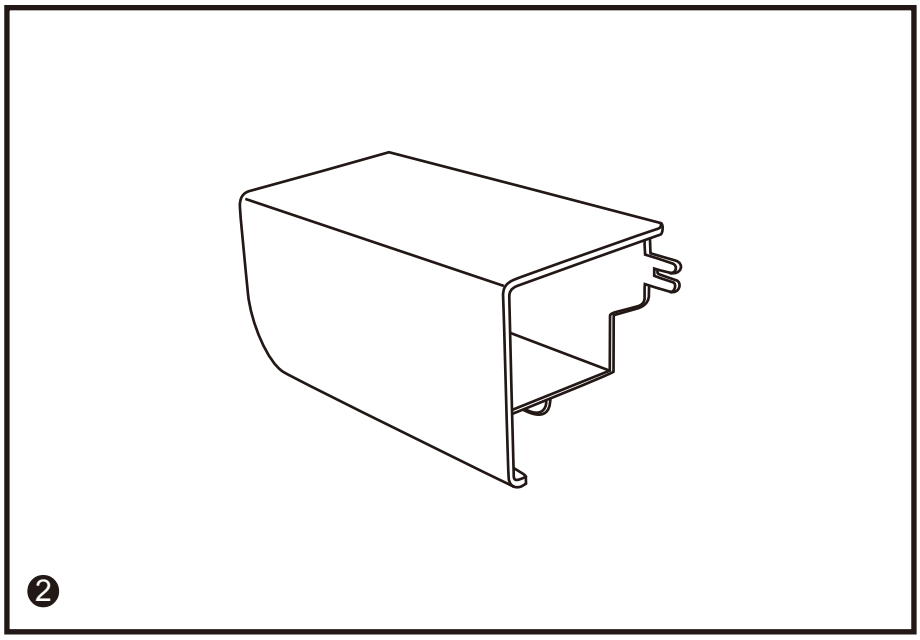
※小物の布地を縫う場合、付属品箱を補助テーブルとして使います。



❶

補助テーブルをはずせば、フリーアームとして使えます。

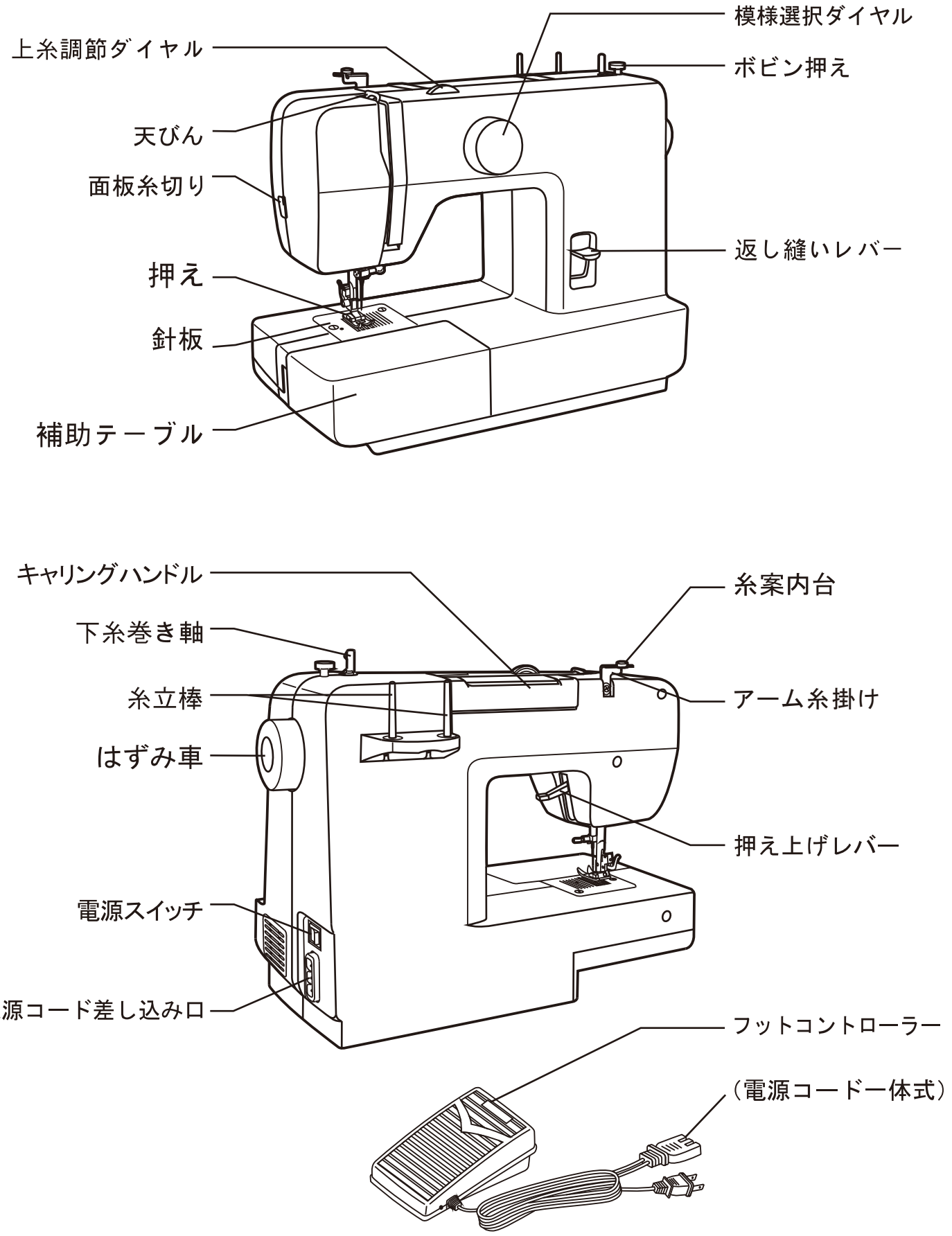
補助テーブルの左端を持って、矢印方向に引くと簡単にはずれます。



❷

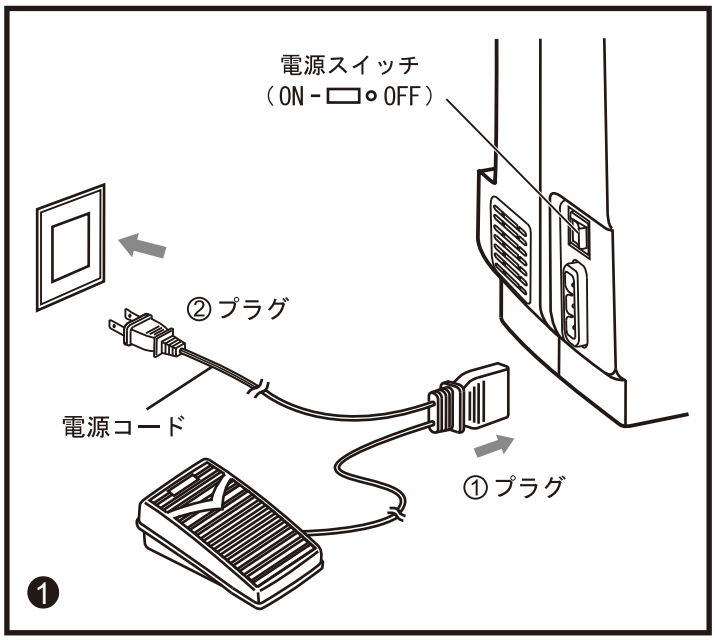
補助テーブルの内部は、付属品入れになっています。

◆ 各部の名称


模様選択ダイヤル
上糸調節ダイヤル
ボビン押え
天びん
面板糸切り
返し縫いレバー
押え
針板
補助テーブル
キャリングハンドル
糸案内台
下糸巻き軸
糸立棒
アーム糸掛け
はずみ車
押え上げレバー
電源スイッチ
電源コード差し込み口
フットコントローラー
（電源コード一体式）

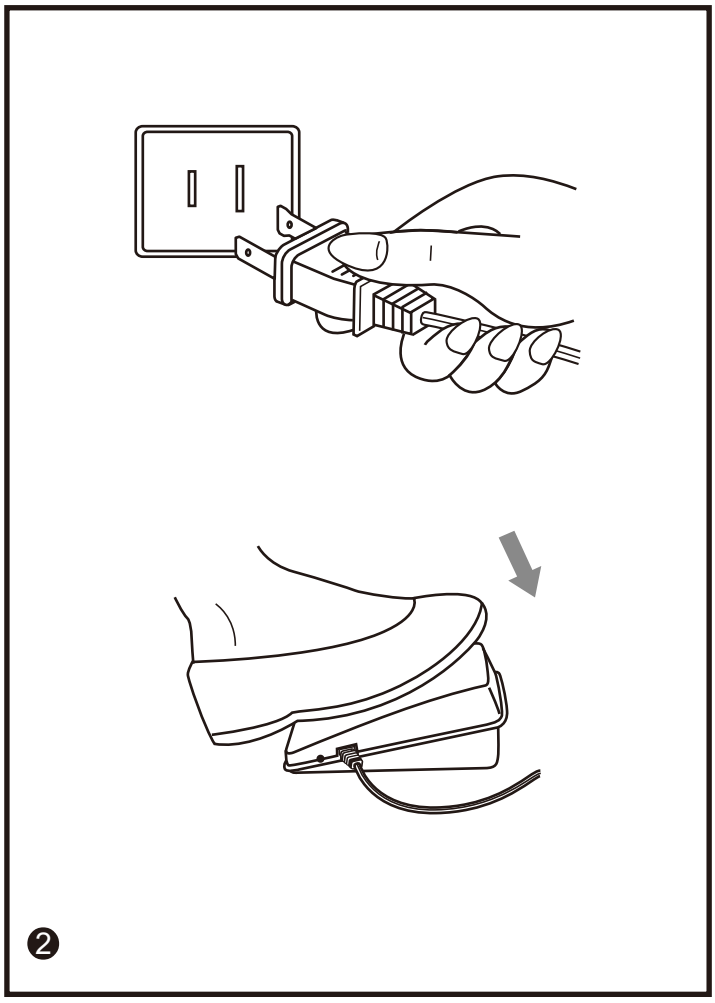
◆ 電源のつなぎ方と始動・停止

⚠警告：感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグを持って 抜き差ししてください。



電源コードのプラグ①をミシン本体に差し込み 、プラグ②を家庭用電源（100V50/60Hz）コンセントに差し込みます。

電源スイッチを入れますと照明ランプが点灯します。

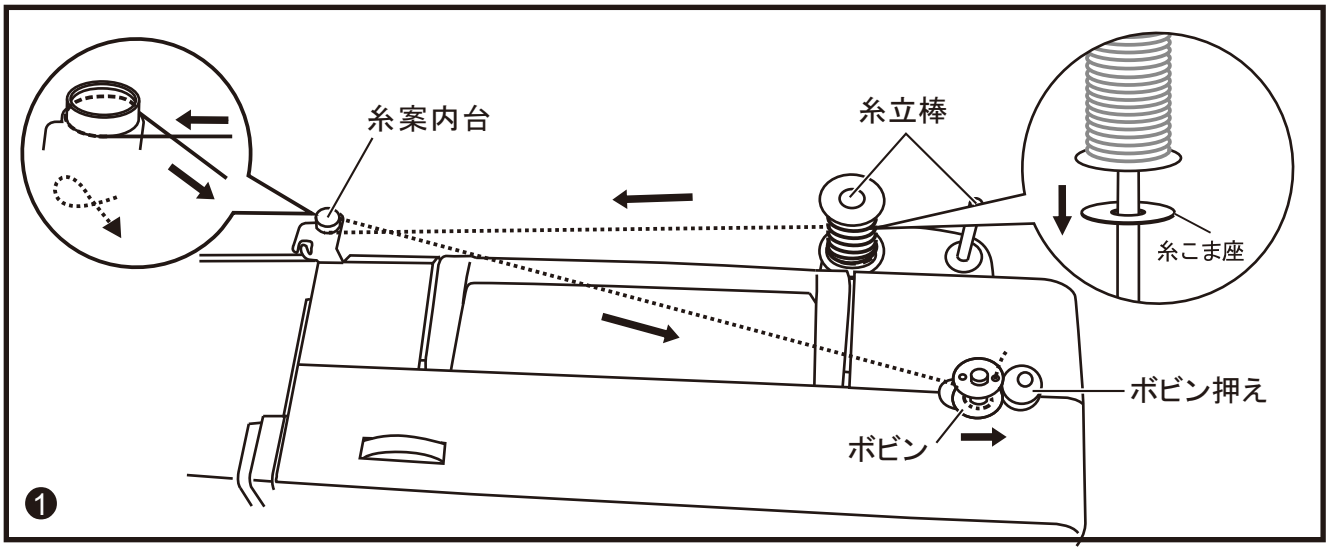


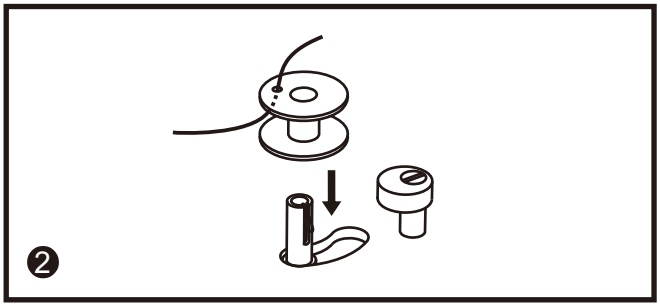
ご注意
ミシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いておいて下さい。

警告：感電、火災を防ぐために
コントローラーは落としたり、座ぶとんなどの下において使用しないでください。

コントローラーの使い方
浅く踏む —— スピードおそい
ふかく踏む —— スピードはやい

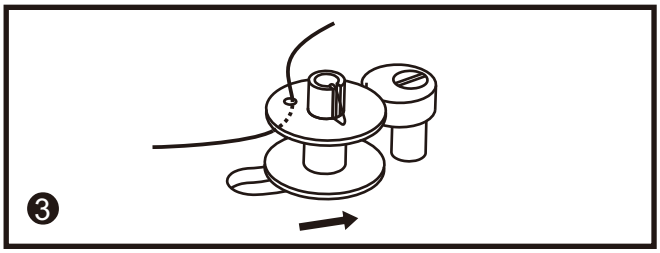
◆ 下糸の巻き方



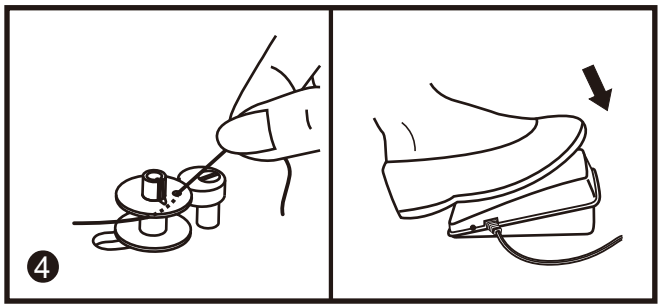


❶ ミシン糸を糸立棒に差込み、糸案内台に糸をかけます。

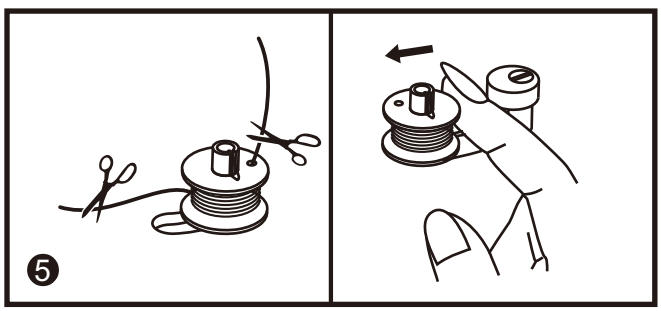
❷ ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にボビンをセットします。



❸ 糸巻軸にセットしたボビンを右方向にスライドさせボビン押えに押します。



❹ ボビンの表面の穴に、内側から外に向けて糸を 10㎝ ほど通し、そのまま糸端を手で真上の方向に持っておきます。
フットコントローラーを軽く踏んで巻きを始めます。



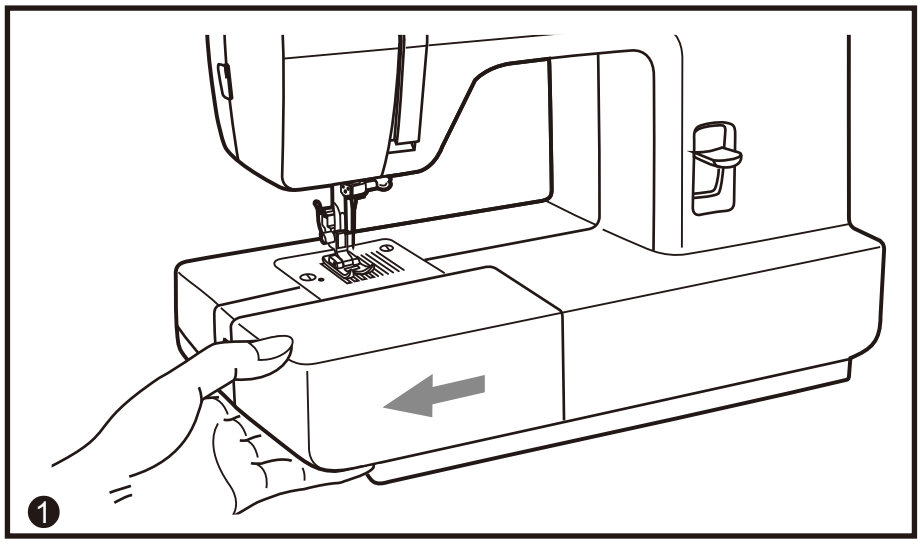
❺ 巻き終わるとボビンの回転はゆるやかになります。
コントローラーから足を外し、ミシンを止め糸を切り、糸巻き軸を左側に戻してからボビンを取り外して下さい。

◆ ボビンの挿入方法

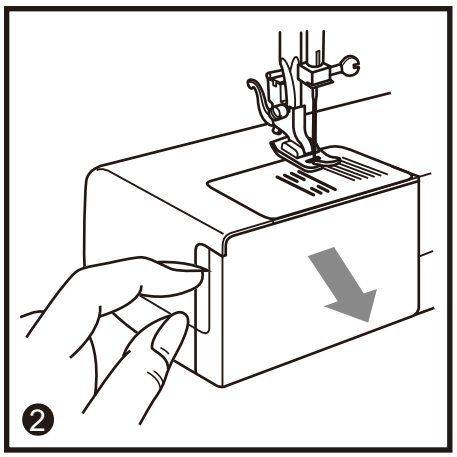
⚠ 注意：ケガ防止のために

必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

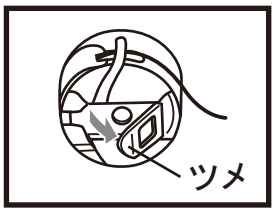
ボビンの挿入および取外しをする際には、はずみ車を手前に回して針を最上点にもってきてください。

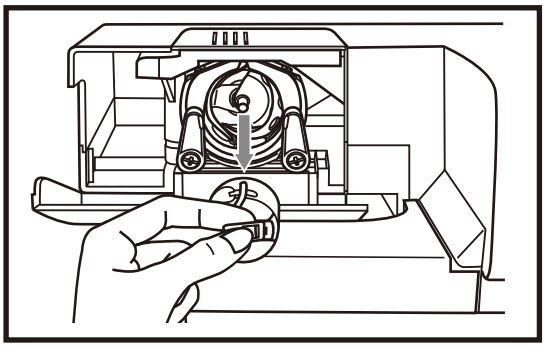


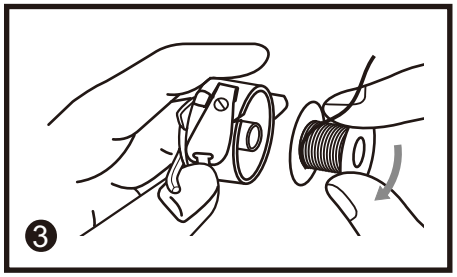
❶ 補助テーブルの左端を持って、矢印方向に引き、補助テーブルを外します。



❷ 釜開閉カバーを開きます。
ボビンケースを取り外すには、ツメの部分を持って手前に引くようにします。



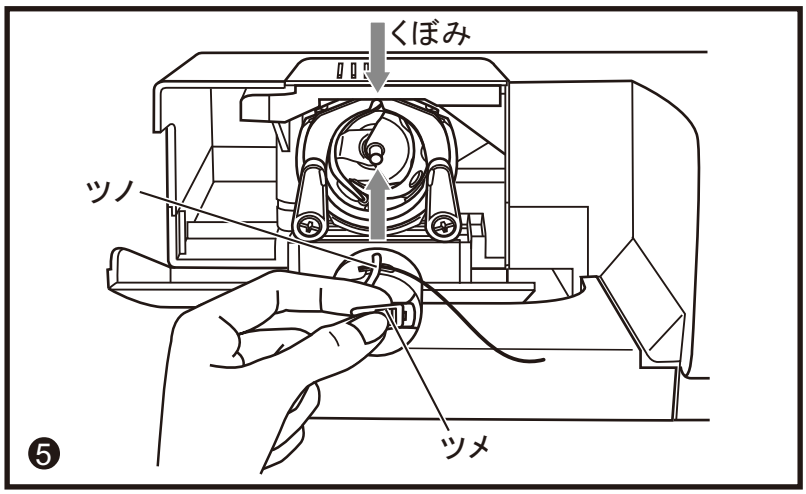




❸ ボビンケースを片手で持ち、糸が時計回り（矢印の方向）にしてボビンを挿入します。

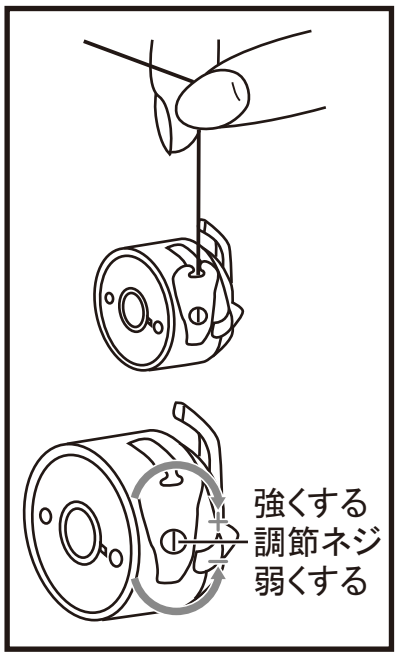
❹ 糸端を持ち、切りみぞから糸調子ばねの下を通して穴から糸を出し、糸端を引きぬきます。ボビンが時計まわりになるか確認します。

◆ ボビンの挿入方法



❺ ボビンケースのツメの部分を持ち釜の中にセットします。
ボビンケースのツノの部分が、外釜の上にあるくぼみにはまるようにして下さい。

下糸の調節の仕方



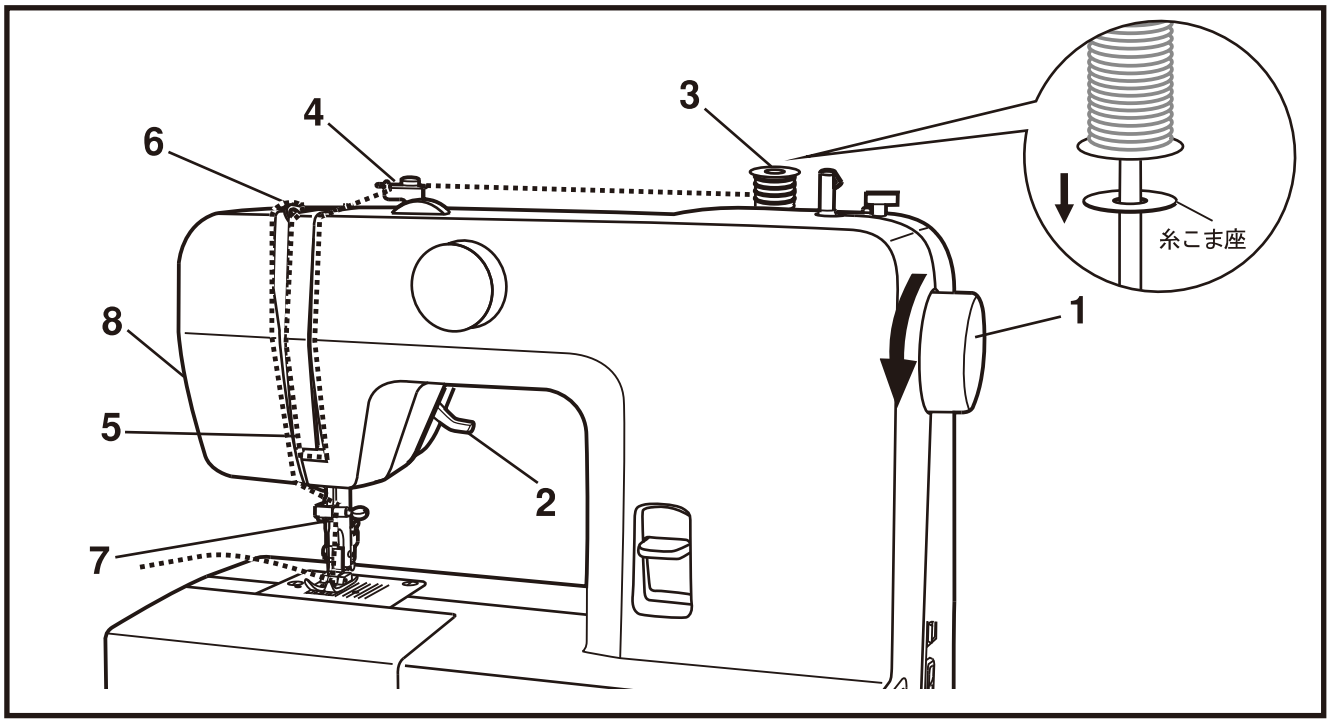
糸調子は「下糸調子を基準にして、上糸の調子をとる」のが原則です。

下糸の調節は、右図のようにボビンケースの窓から出る糸端を持ち、下方向に振り下げた時にちょっと動いて止まる＜目安は2～3cm下がる＞程度を基本とします。

試し縫いをして下糸が強い場合は、調整ねじを左に回して弱くし、下糸が弱い場合は右に回して強くします。

◆ 上糸のかけ方

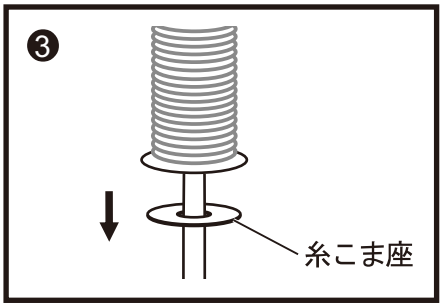
⚠ 注意：ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



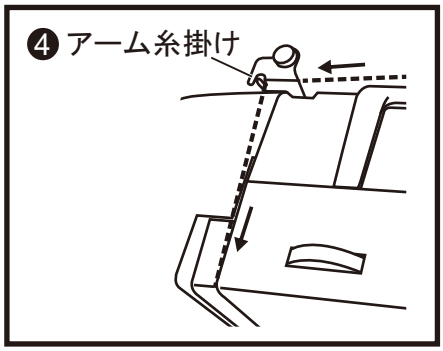
❶ **ご注意**

正しく糸掛けをしないと、うまく縫えません。
はずみ車を手前に回して天びんを一番上まで上げます。

❷ 押え上げレバーを上げて押え金は必ず上げた状態にします。



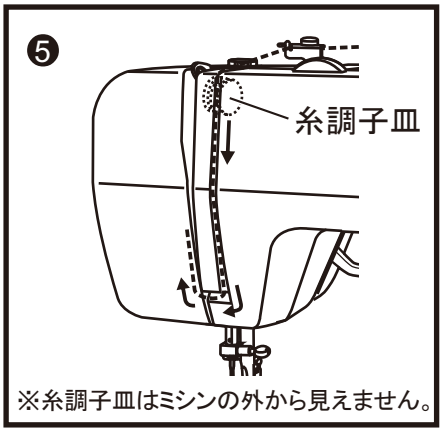
ミシン糸を糸立棒にセットし、糸が糸コマの前側から解けることを確認します。



アーム糸掛けに糸をセットします。

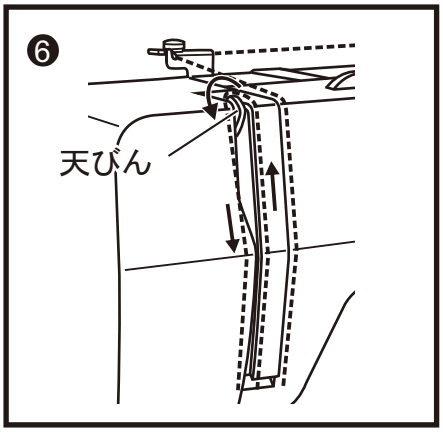
- 両手で糸を持ち、アーム糸掛けの後から手前に引いて、糸を通します。

◆ 上糸のかけ方

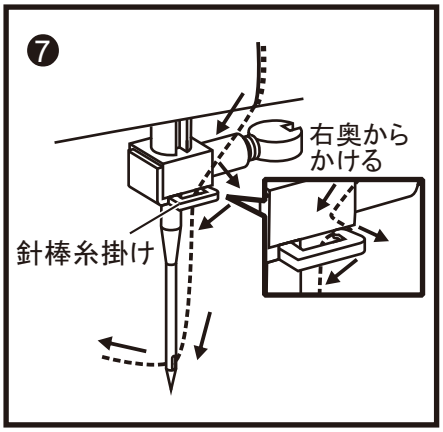


アーム糸掛けにかけた糸を両手で持ち、ピンと張った状態で、まっすぐ手前に引き、溝の中に入れて、ミシン内部の糸調子皿に糸を入れます。

そのまま溝に沿って下に引いていき、溝の終わりから、左側の溝に沿って上に引き上げていきます。

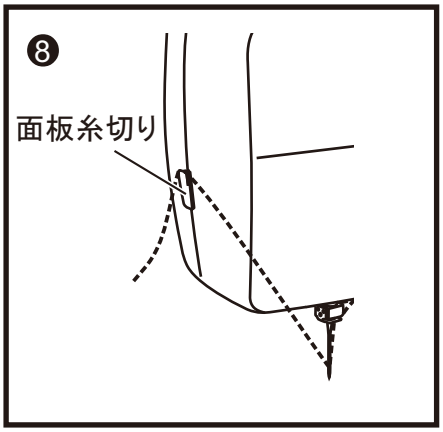


天びんに、右から後ろへ回してから左手前に引き、糸を天びんの奥の穴までかけます。



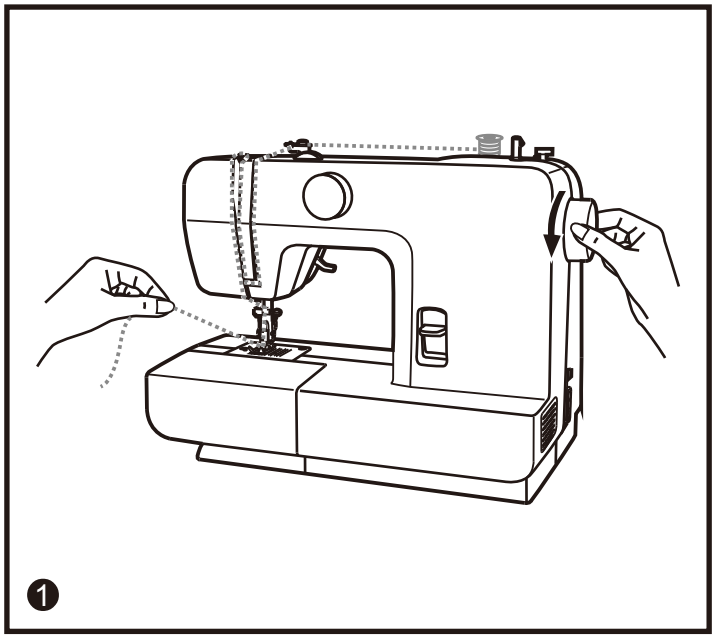
針棒糸掛けに、右奥から糸を掛けます。

針に糸を通します。
針穴は前から後に通します。



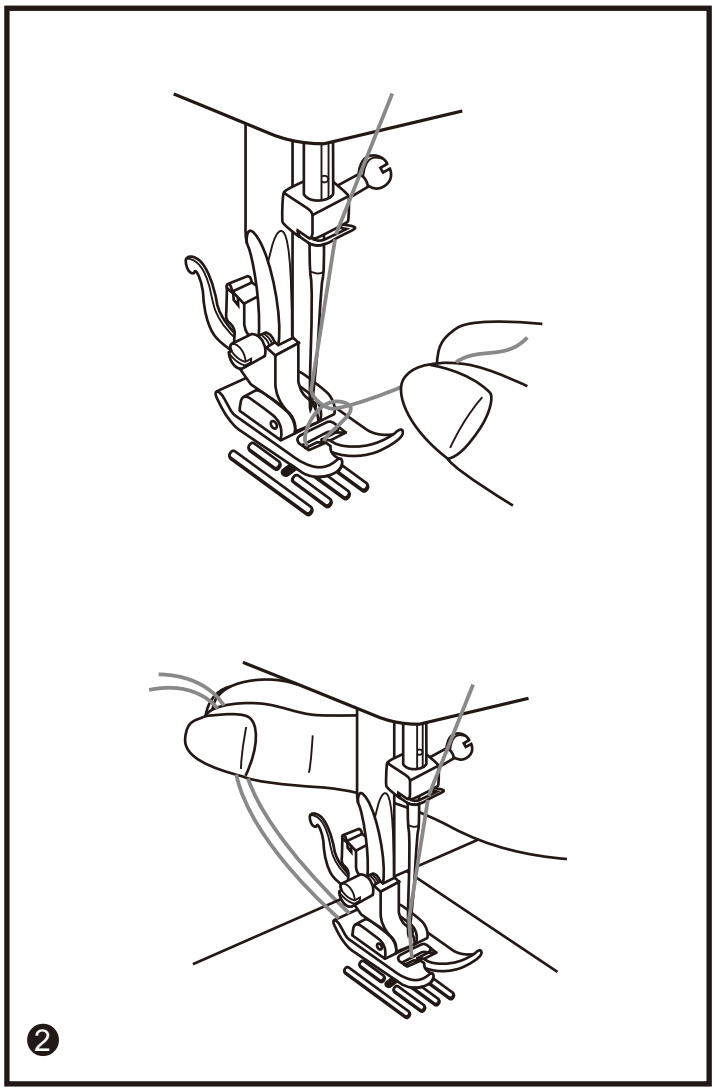
余分な糸はミシン本体の左横にある
面板糸切りでカットします。

◆ 下糸の引き上げ方



❶

上糸を左手で持ちます。はずみ車を前方向に回して、針を上げます。



❷

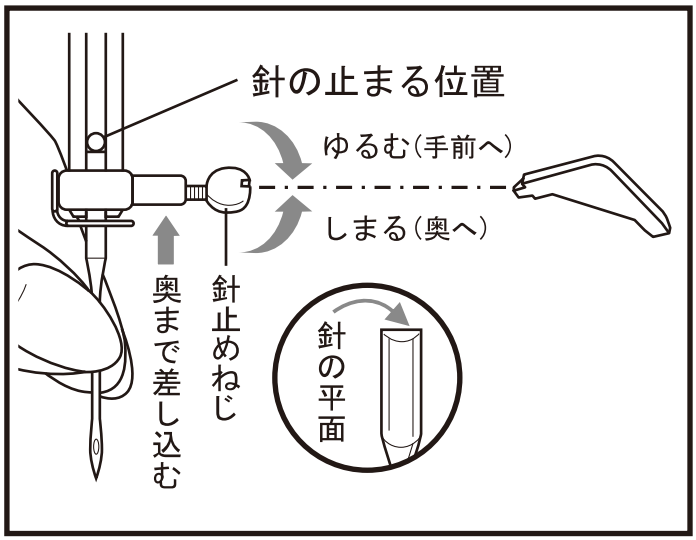
上糸を引くようにして、下糸を針板の穴から引き出します。上下の糸端をそろえて、押え金の下を通して押えの後ろ側に出します。

◆ 針の取付けと取り外し方

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 曲った針やつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針(HAx1)をご使用ください。

針は、布地や糸に合わせて選びます。19ページの「針と糸の選び方」を参照してください。



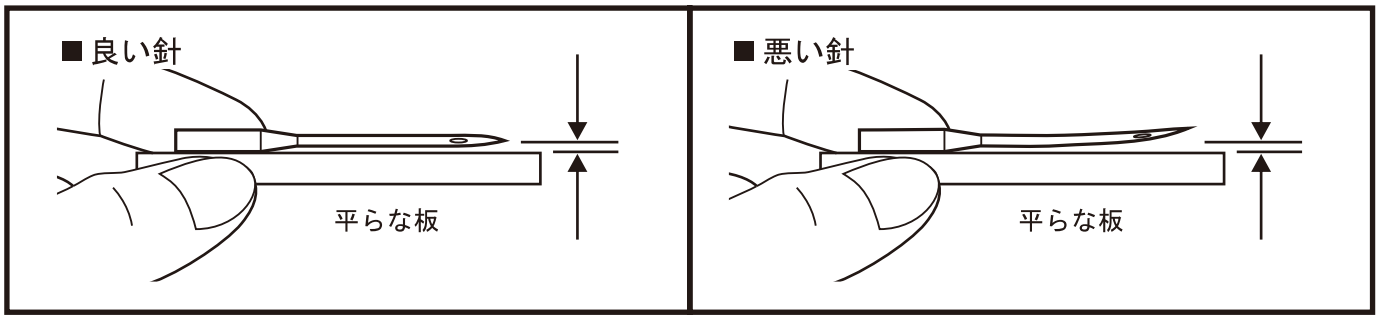
電源を切ります。

押え上げレバーを下にさげます。

針止めネジをドライバーで
手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面(平らな面)を向こう側(針棒側)に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジをドライバーで奥に回して締めつけます。

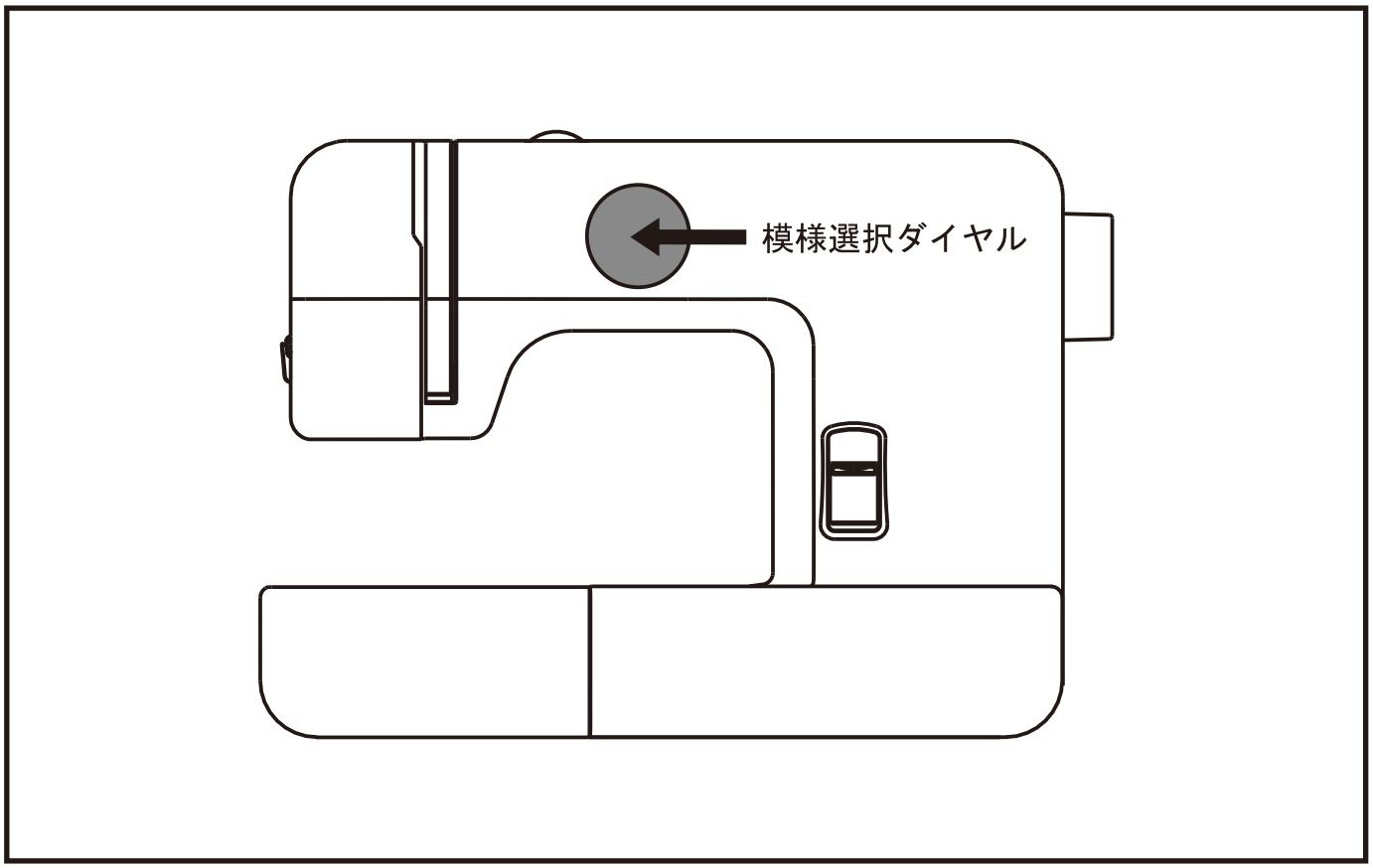
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



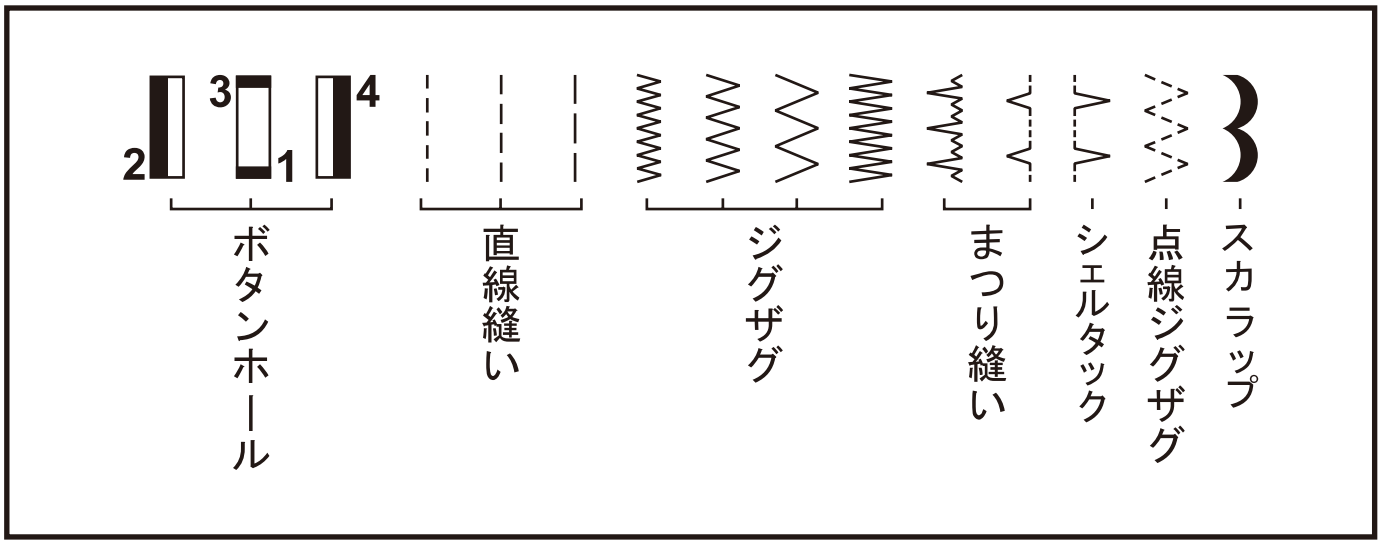
◆ 模様の選び方

⚠ 注意：ケガ防止のために

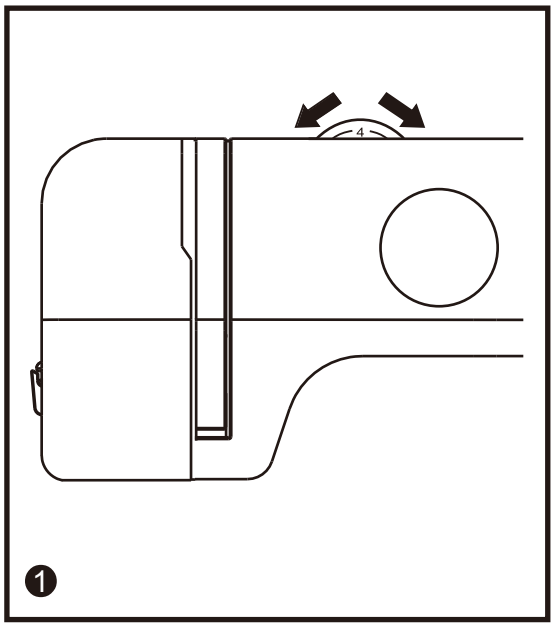
模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。
針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。



模様選択ダイヤルを回して、模様を選択して下さい。

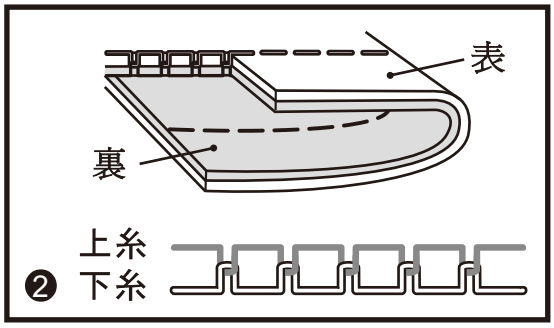


◆ 上糸調子のとり方



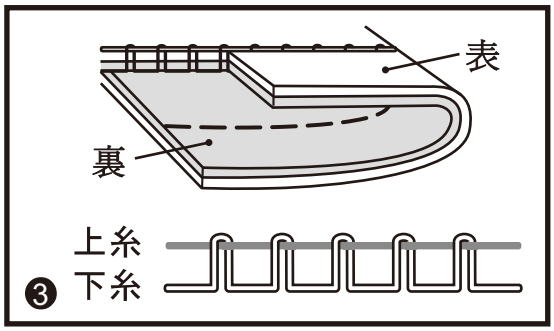
❶ 上糸調節ダイヤル

通常、糸調子ダイヤルを2～3に合わせると、糸調子があう設定になっています。



❷ 正しく調節されている場合

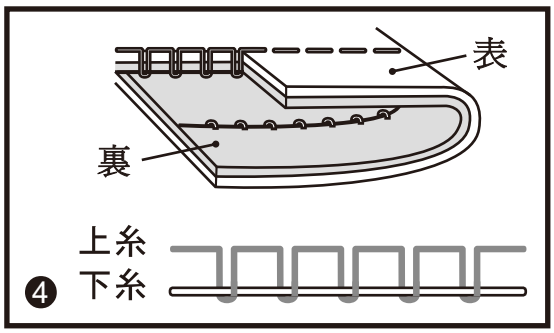
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときは、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。



❸ 上糸が強い場合

上糸調子ダイヤルを左に回して、数字を小さくすると、上糸調子は弱くなります。

左図のように、上糸と下糸が布の中間で交差して、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常です。

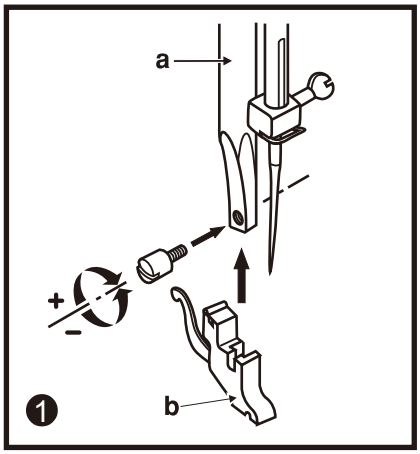


❹ 上糸が弱い場合

上糸調子ダイヤルを右に回して、数字を大きくすると、上糸調子は強くなります。

※どうしても糸調子が合わない場合には、下糸の糸調子を合わせてから再度行ってください。また、上糸掛けが誤っている場合が多くあります。一度糸を外して正しく掛けなおしてください。

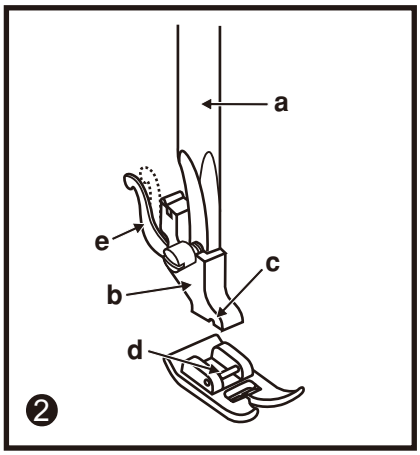
◆ 押え金の取り付けと取り外し方



❶ 押え金ホルダーの取付け方

はずみ車を回して、押え棒を上げます。(a)

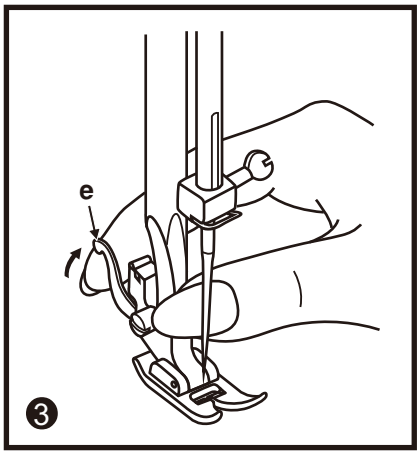
押え金ホルダー(b)を図のように取り付けます。(お買上げ時はミシン本体にセットされています)



❷ 押え金の取付け方

(d)のピンが(c)の切り込み部分の真下に来るようにして、押さえ上げレバーを下げます。

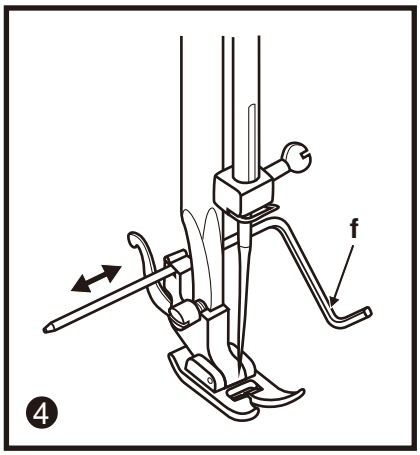
※押え金が取り付けにくい場合には、(e)のレバーを手前に引きながら押え上げレバーを下げます。



❸ 押え金の取り外し方

押え上げレバーを上げて、押え金を上げます。

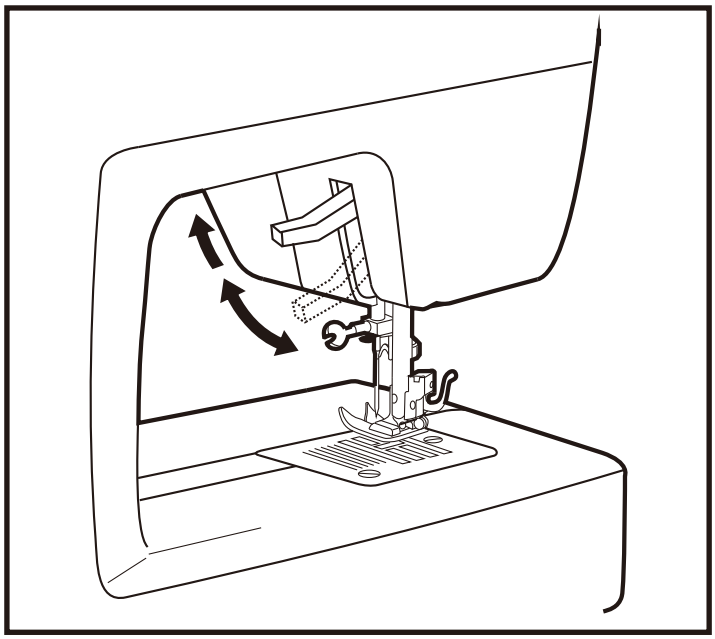
(e)のレバーを手前に押すと押え金は外れます。



❹ シームガイドの取付け方

シームガイド(f)を、図のように取り付けます。ヘム縫い、プリーツ縫い等の目的に合わせて、長さを調節します。

◆ 2段式押え金



押え金レバーを使えば、押え金を上下させることができます。

分厚い布を数枚重ねて縫う場合には、押え金をもう一段階高い位置に上げる事ができます。

◆ 針と糸と布地の組み合わせ

	布地の種類	針の種類（番号）	糸の種類 . 太さ
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、パイル地、 ギンガム	11、14 番	綿　糸 60 番～80 番 化繊糸 60 番～80 番 絹　糸 50 番～80 番
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラ 、サテン地	9、11 番	綿　糸 60 番～100 番 化繊糸 60 番～80 番 絹　糸 50 番～80 番
厚地	カーテン地、キルティング、フリース、ツイード、デニム、フェルト	14、16 番	綿　糸 40 番～50 番 化繊糸 30 番～50 番 絹　糸 50 番

- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ニット用針は伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。
- 購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

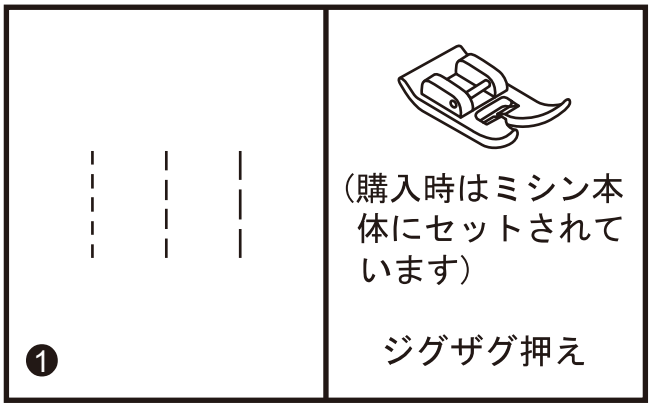
※綿や絹糸は、経年劣化により切れやすくなります。(目安として製造より2年)
なるべく新しいものをお使いください。

＜オススメ＞
スパン系(素材:ポリエステル)の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、また長持ちします。

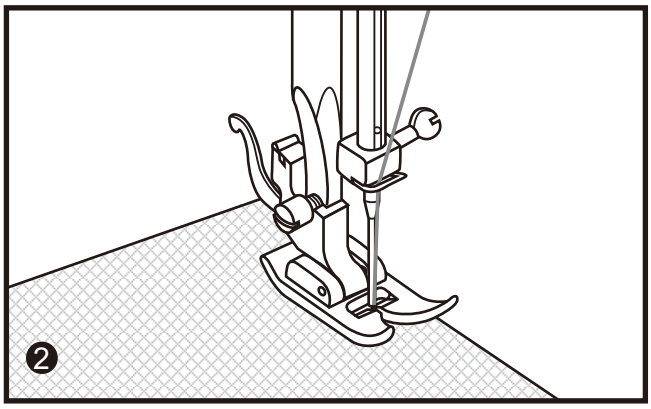
◆ 直線縫い

⚠ 注意：ケガ防止のために

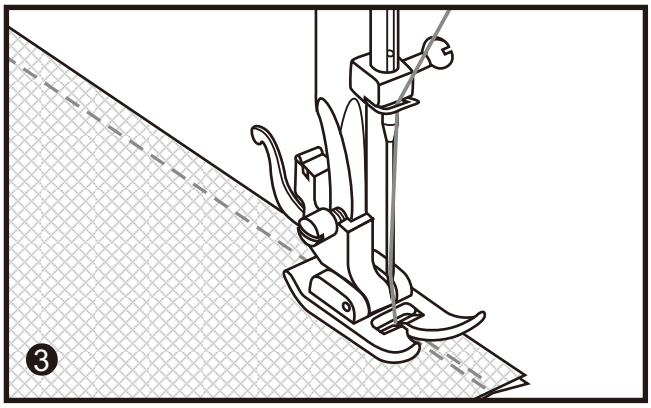
- 針先には十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。



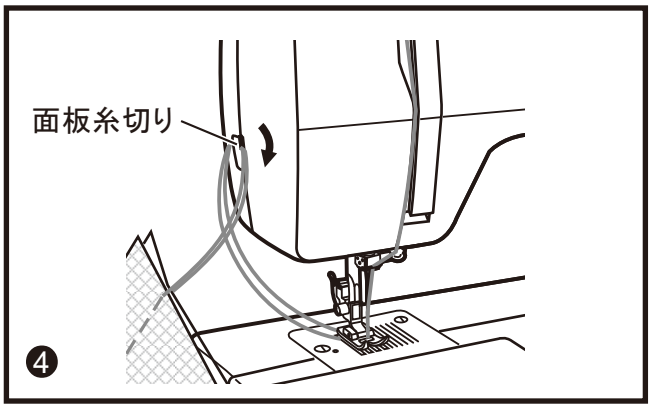
各部分をセットします。
模様選択ダイヤルを直線 3 種から選んで合わせます。



縫い始める位置ではずみ車を手前に回し、針を刺してから押えをおろしてください。フットコントローラーを足で踏み、スタートさせます。

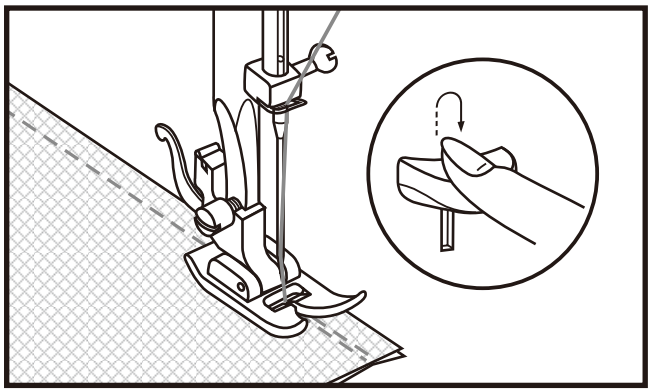


縫い終りましたらフットコントローラーから足を離して、ストップします。



押えを上げ、面板糸切りに糸をかけて手前下に引くと糸が切れます。

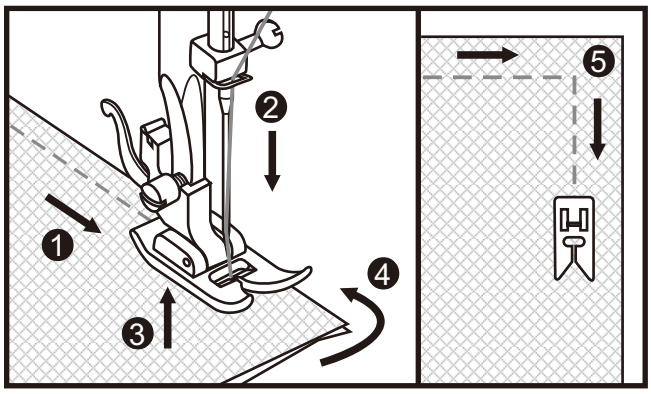
◆ 返し縫い



フットコントローラーを踏みながら返しレバーを押し下げます。押し下げている間は、返し縫いができます。レバーをはなすと前進します。

縫い始めと縫い終りに 3～5 針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。

◆ 縫い方向のかえ方



布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を離します。**(1)**

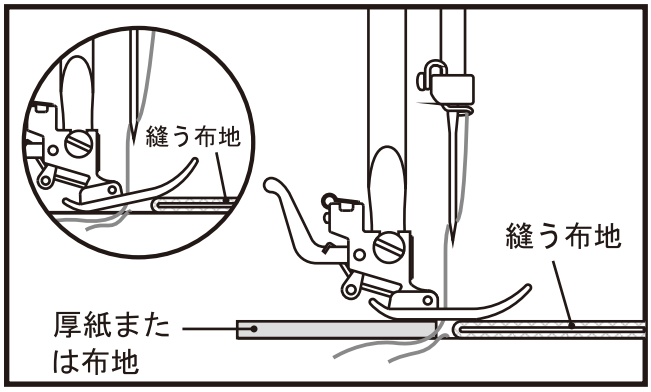
はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。**(2)**

押えを上げます。**(3)**

針を軸にして布地を回し、縫い方向にセットします。**(4)**

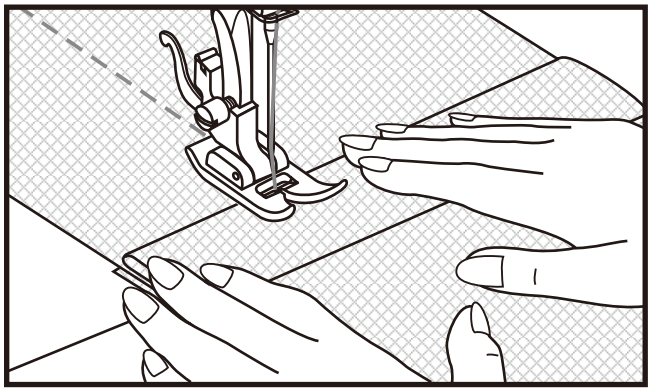
押えを下げて、縫い始めます。**(5)**

◆ 厚地の縫い始め



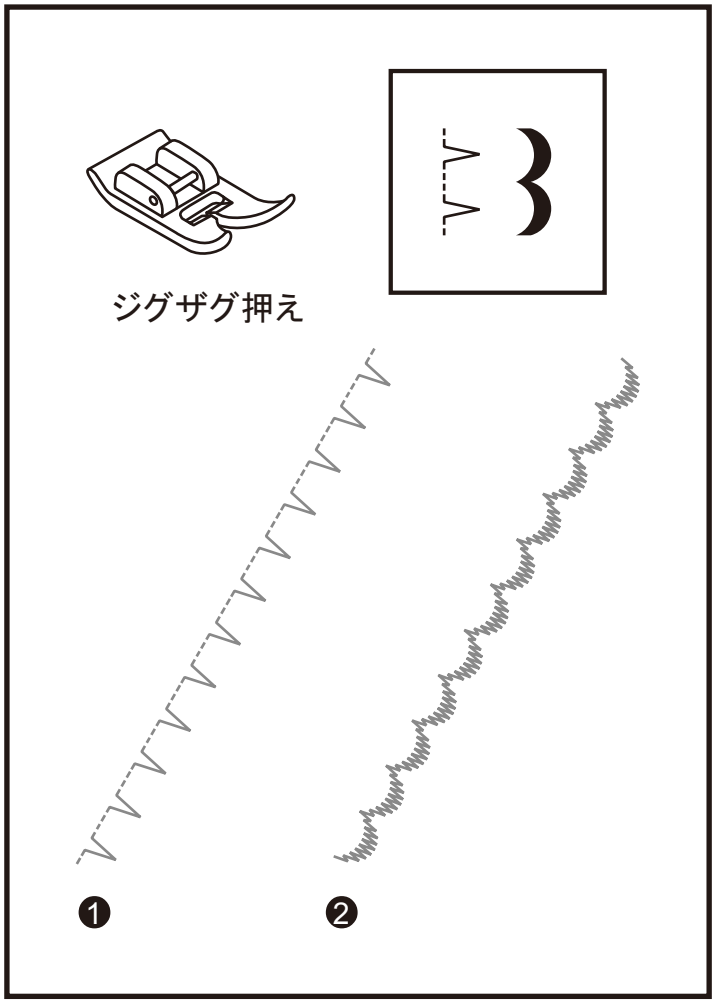
厚地の布端から縫い始めるときに、押えが傾いてスムーズに縫えないことがあります。このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがって縫い始めます。

◆ 段縫い



布地が重なって、急に厚くなった部分を縫うときは、手で布の送りを助けながら縫います。

◆ 飾り縫い



シェルタック (1)

・布端を飾るのに使います。薄手の伸縮性のある布に適しています。

・模様選択つまみは、”⋀⋀⋀” にセット。

・シェルの効果を出すには、針が右に振れた時に、生地の端に来るように布地をセットして下さい。

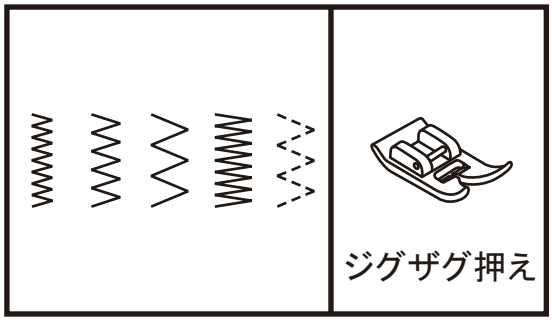
スカラップ縫い (2)

模様選択つまみは、” } ” にセットします。

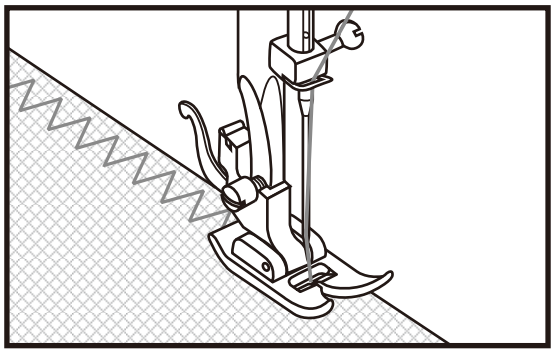
レースやフリルの端などの飾りにお使い下さい。

布を切る前に、切るラインに沿って縫います。縫い終わったら模様に沿って生地をカットします。

◆ ジグザグ縫い　裁ち目かがり

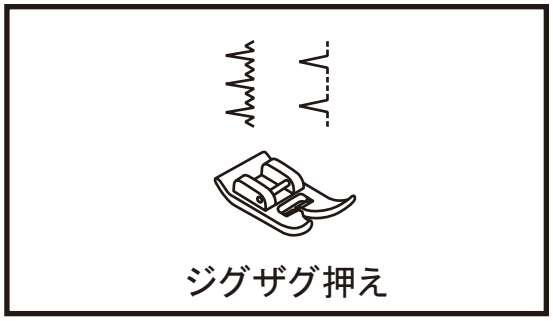


ジグザグ縫いの糸調子は、直線縫いにくらべ、上糸をやや弱めにし、うらに上糸がでるくらいが適当です。

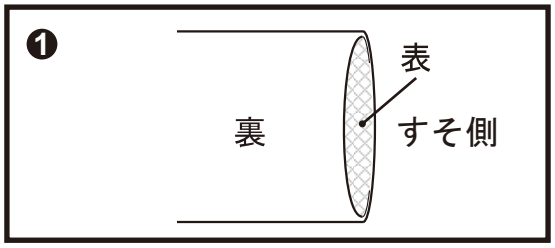


● 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいに縫えます。

◆ まつり縫い（ブラインドステッチ）

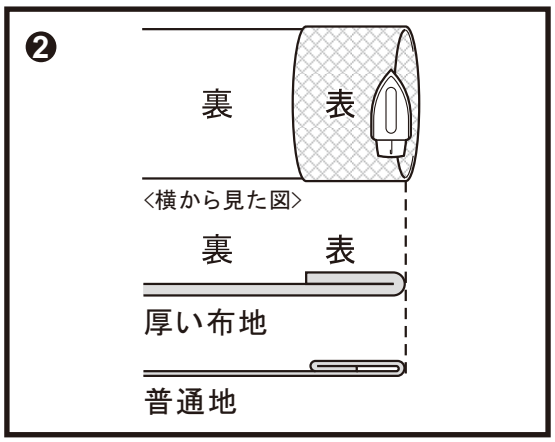


○ ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。お子さんの服のたけの直しなどにもぜひご利用ください。

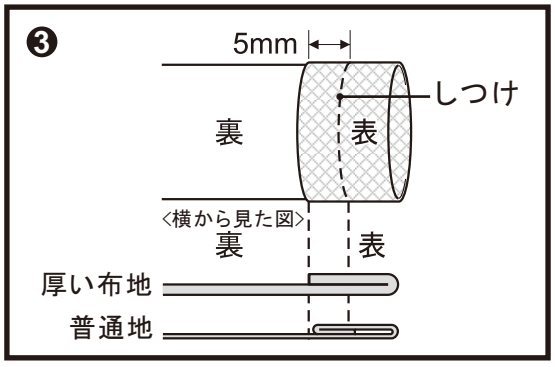


※スカートやズボンのすそを、次の手順でまつります。

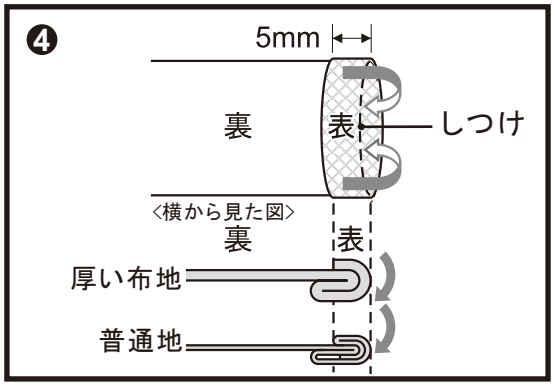
❶ すそ上げするスカートやズボンを裏返します。



❷ できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。

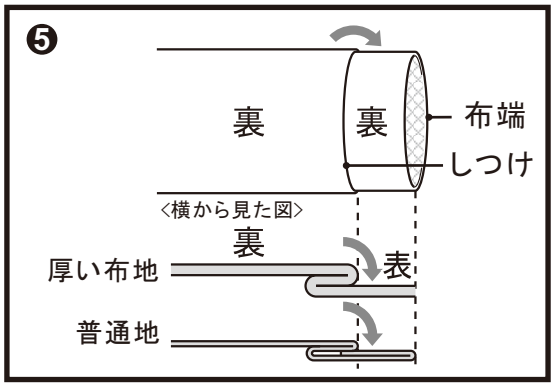


❸ 布端から約5mmのところにチャコペンで印をけ、しつけをします。

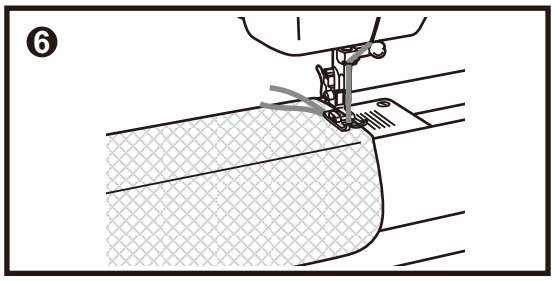


❹ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

◆ すそ上げをする（まつり縫い）

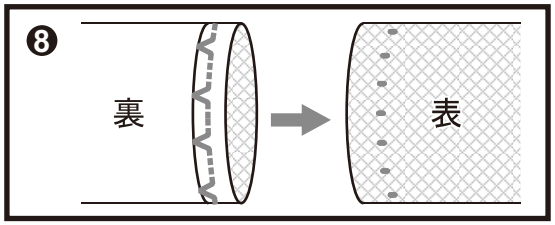


❺ 布端を開いて裏返します。



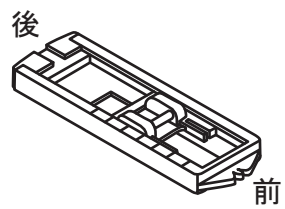
❻ ミシンをフリーアームにして、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。

❼ はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折り山にわずかに刺さるように布の位置を合わせて縫います。

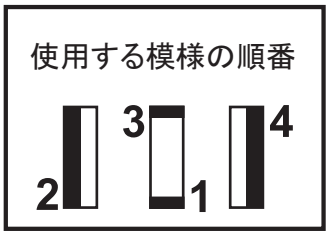


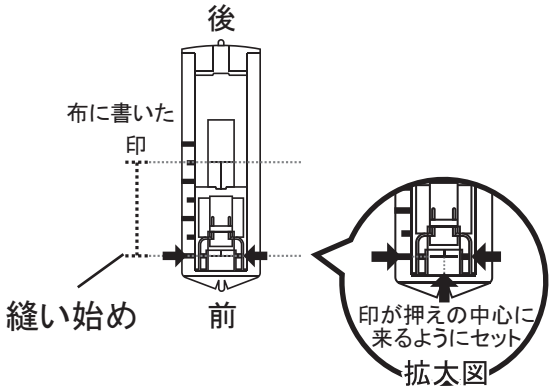
❽ しつけをほどき、布地を表に返します。

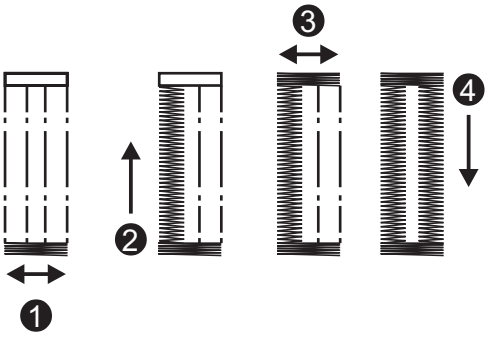
◆ ボタンホールの縫い方



ボタンホール押え







1. 5～6 針縫います。（かん止め）
2. 左側 を縫います。
3. 5～6 針縫います。（かん止め）
4. 右側 を縫います。

準備

模様選択ダイヤルをボタンホール1にセットします。

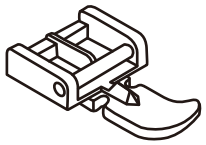
- ボタンホール押えに交換します。
- ボタンの直径+厚みをボタンホールの穴かがり部分の長さとします。
- 布にボタンホールのサイズを印します。
- ミシンに布をセットします。その際、布に付けたボタンホールの印の中心を、押えの穴の中央に合わせて、押えを下げ、押えの手前に隙間が空かないように、押えを一番後ろまで引き出してセットします。
- 4 段階でボタンホールを縫います。模様選択ダイヤルで、次のステップに移ります。❷ の部分を縫う際に、ボタンホールの長さを設定します。

縫い終わったら、リッパーを使って、上下の端から中央に向かって、ボタンホールを開けます。

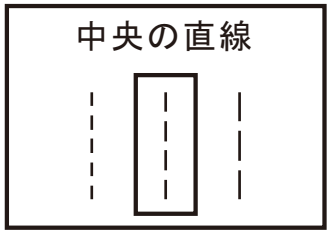
ヒント

- 上糸の糸調子を少し弱くすると、きれいに仕上がります。
- 薄手の布および伸縮性のある布には、必ず接着芯を当てるようにして下さい。
- 伸縮性のある布およびニット地には、太い糸またはコードを芯糸として使います。
- 芯糸は、ジグザグステッチの中に縫い込まれてしまいます。

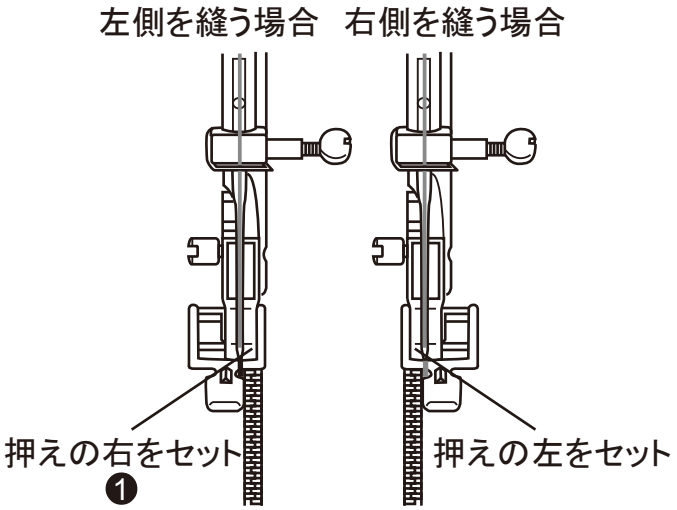
◆ ファスナー付け



ファスナー押え

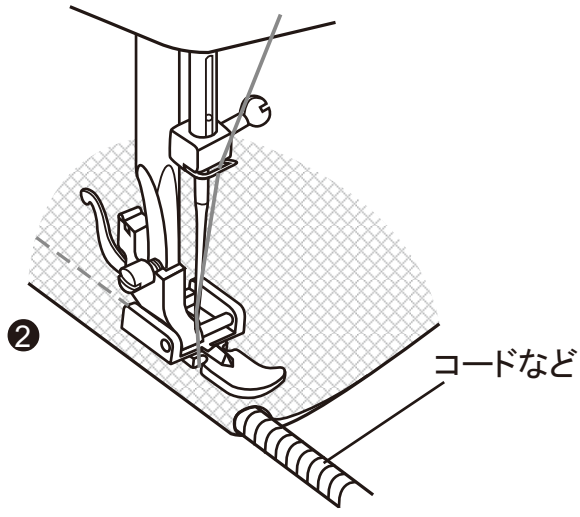


模様選択ダイヤルは、直線をセットします。



ファスナー用押えは、縫う側に合わせて、左右どちらかにセットします。❶

ファスナーはあき止まりの方から、閉じた状態で縫い始め、5cmくらいぬったら、いったんミシンを止めます。
針を下げたまま押えを上げ、ファスナーを開いて続きを縫います。



その他、バイアスコードを縫い込んで、「ふち飾り」にすることもできます。❷

◆ LED ライトの交換

ミシンに装備されている LED ライトは非常に長持ちなので、通常は交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

◆ ミシンの手入れ

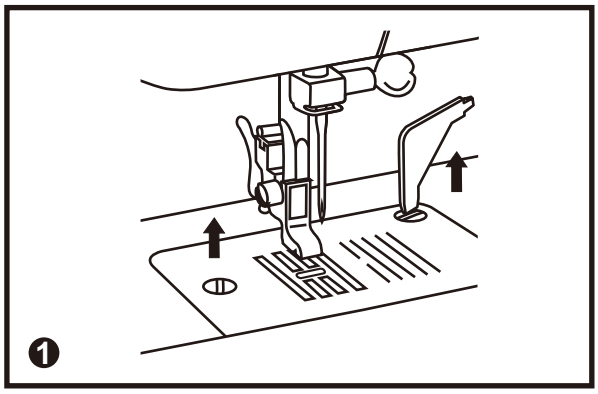
⚠ 注意：

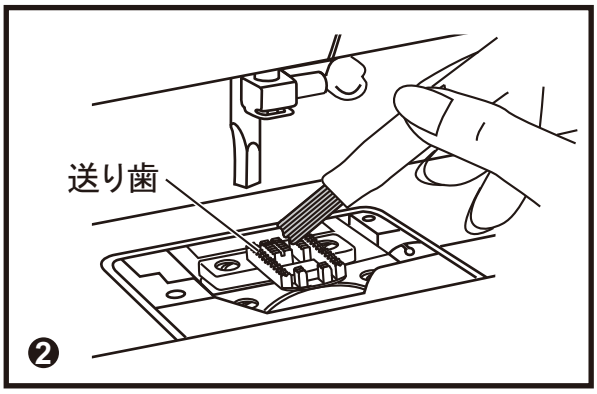
部品の交換やクリーニングの 際には、必ずスイッチをオフにし、ミシンの電源プラグを抜 いて下さい。

クリーニングの仕方

押え上げレバーを上げて、押えを上げ、押え金を取り外します。

針を１番高い位置に上げ、補助テーブルを取り外し、フリーアームの前にある釜開閉カバーを開きます。



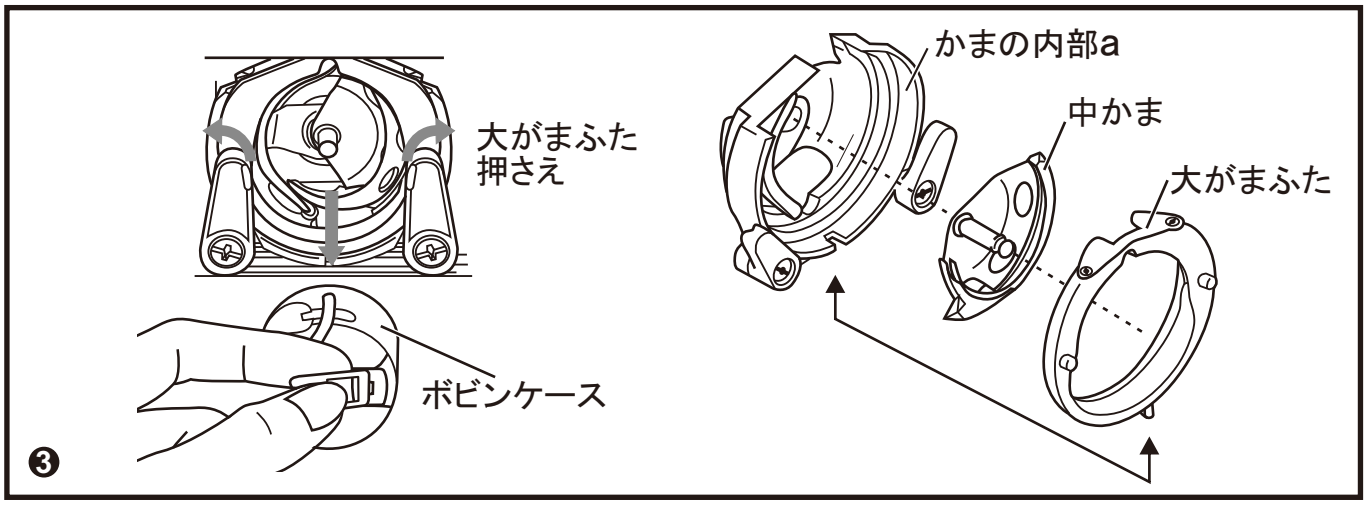


❶ 針板の取外し方

付属品のドライバーで２本のネジを緩め、針板を取り外します。

❷ 送り歯のお手入れ

送り歯のゴミを、ブラシで清掃します。



❸ ボビンケースを外し、大がまふた押えを左右にひらき、大がまふたと中かまを外します。

ブラシで中かまを清掃し、布でふきとります。注油は、かまの内部のaの部分に1,2滴落す様にします。

組み付けは、外した時の逆の順序で組み付けます。最後に針板を取り付けます。

ご注意

針が下の位置にある場合には、中釜を取り外すことはできません。

釜カバーをセットした後はプーリーを手で廻し、２～３針動かして問題なくセットされている事を確認されたうえで、ご使用下さい。

重要事項

布のくずや毛羽、糸等は、必ず定期的に掃除して取り除くようにして下さい。また、お買上げ代理店での、ミシンの定期点検をお勧めします。

◆ 調子よく縫えない原因と調整方法

問題	原因	解決方法
上糸が切れる	- ミシンの糸かけが間違っている。 - 上糸調子が強過ぎる。 - 針に対して糸が太過ぎる。 - 針の挿入方法が間違っている。 - 糸立て棒に糸が絡まっている。 - 針に損傷がある。	- 上下糸を正しく掛け直してください。 - 上糸調子を緩めて下さい。(小さい数字) - 太い針に交換して下さい。 - 針を入れ直して下さい。(平らな面が後ろを向く) - 糸コマを外して、糸立て棒に絡まった部分を外して下さい。 - 針を交換して下さい。
針目が飛ぶ	- 糸の品質が悪い・劣化している。 - 糸かけが間違っている。 - 針の挿入方法が間違っている。 - 針に損傷がある。 - 針のサイズが布に合っていない。 - 押えの取付け方が間違っている。	- 新しい糸をお使いください。 - 上下糸を正しく直してください。 - 針を入れ直してください。(平らな面が後ろを向く) - 針を交換して下さい。 - 糸と布に合う針に交換して下さい。 - 押えを正しく取り付けて下さい。
針が折れる	- 針に損傷がある。 - 針の挿入方法が間違っている。 - 針のサイズが布に合わない。 - 目的の違う押えを使っている。	- 針を交換して下さい。 - 針を入れ直して下さい。(平らな面が後ろを向く) - 糸と布に合う針に交換して下さい。 - 正しい押えに交換して下さい。
縫えない	- 糸かけが間違っている。 - 上糸のかけ方が間違っている。 - 針、布、糸の組み合わせが合っていない。 - 糸調子が間違っている。	- 糸かけを確認して下さい。 - イラストをご参照の上、上糸をかけて下さい。 - 糸と布に合う針に交換して下さい。 - 糸調子を正しくして下さい。
縫い目にギャザーが寄ったり、つれたりする	- 布に対して針が太過ぎる。 - 送り長さの設定が間違っている。 - 糸調子が強過ぎる。	- 細目の針に交換して下さい。 - 送り長さを調整し直して下さい。 - 糸調子を緩めて下さい。
ステッチが均等でない、送りが均等でない	- 糸の品質が悪い。 - 下糸のかけ方が間違っている。 - 布が引っ張られている。	- 高品質の糸をお使い下さい。 - ボビンケースを取り外して、糸かけをし直して下さい。 - 縫いながら布を引っ張らず、ミシンの送りに任せて下さい。
ミシンの音が高い	- ミシンに注油が必要。 - 釜または針棒に毛羽やオイルが付着している。 - オイルの品質が悪い。 - 針に損傷がある。	- 説明書に従って注油して下さい。 - 説明書に従って釜および送り歯を清掃して下さい。 - 注油には高品質のオイルをお使い下さい。 - 針を交換して下さい。
ミシンが動かない	- 糸が釜に絡まっている。	- 上糸およびボビンケースを取り外して、はずみ車を手で前後に回し、絡まった糸を外して下さい。その後、説明書に従って注油して下さい。

toyo

東洋精器工業株式会社
〒503－0816 岐阜県大垣市小泉町 302
電話 (0584) 78－5478
FAX (0584) 74－3821
http://www.toyo-mishin.com

021M1A0402(JP)